

めて御相伴衆は、大名一列に御前へ被參候て、御亥子の餅すはり□□御膳二膳參候て、御相伴衆次第頂戴ありて被參也、其次國持衆、此外正月一日數御盃を頂戴之人數被參候て、後二膳參候内、一膳御とふりへ被出候て、常外様衆被參候て、此御膳をばあげられ候て、又別に一膳參候て御供衆、申次番頭以下節朔衆、走衆、御藥師上池院迄參候て、其次公家と申入て、公家官位次第に被參也、御部屋衆は御供衆後に被參候哉、是は伊勢肥前守盛富説也云々、昔は禁裏様御嚴重は、公家衆被參候時、傳奏持參候て御頂戴也、近年は先一ばんに御頂戴と也、御嚴重包様事、三色に在之、一には繪、二には切箔、三には白紙也、先繪のつ、み紙の事、角の折敷に物の葉を敷て、御嚴重を一すえて繪かきたる引合にて包、口傳在之其上を白引合にてうはづ、みあり、香包の様に包也、此うはづ、みに給人の名を書也、次切はくの事、假令繪書所に繪はなく、切薄たるかはりばかり也、こしらへ様は繪に同次に白紙事、假令繪書所之繪をもか、ず、切はくをもせず、白紙にて包也、白紙のには、うはづ、みと云事なし、うはづ、みなき間、名書もなき也、繪切薄のごとく、角に葉を敷、御成きり一すはりてつ、むまで也、三職計常角にてはなく、大角にすはる也、三職女中同前、又三職以下ことく、く上包に名書あり、但仁木にかざりて名書無之、御嚴重の下に敷く葉事、一番の亥には、玄のぶと菊花たる、二番の亥には、玄のぶと紅葉楓、三番の亥には、玄のぶと鴨脚の葉を敷也、繪にも如此、一番には、玄のぶと菊、二番には、玄のぶと紅葉、三番には、玄のぶと鴨脚を、泥白でいにて書也、又切薄も銀薄にてする也、つ、み紙以下用意事、中臈衆の役也、うはづ、みの名書は、上臈の役也、云々、繪切箔などは、土佐調進上之、御成切はきんとんの御美女方より參、諸下行は、亥子がけと云て、倉役を相懸、以納錢被仰付之、番方へ御嚴重出事、杉原にて御嚴重を二十も卅もつ、みて、御四方をうちかへし、うらへ此五包を銘々に入て、五ヶ番へ一膳づ、出也、此つ、み候事も、番頭へ渡事も、會所同朋之役也、これも菊、紅葉、鴨脚など、時々物の物を敷べき也、又番